

第 2 回専門委員会資料
第 3 期計画の策定方針（案）

平成 30 年 11 月 13 日
秋田県八郎湖環境対策室

八郎湖に係る湖沼水質保全計画(第3期)の策定に向けて(案)

現状と策定方針

- 八郎湖の望ましい水環境及び流域の状況等に係る将来像を表す長期ビジョンを策定し、多くの住民・事業者等の方々と長期ビジョンについて共有を図るとともに、その実現に向けて各種対策を推進している。
- 第2期計画では、生活排水や農地からの濁水などの発生源対策(流入負荷の削減)を継続実施するとともに、アオコ対策を含め、新たな湖内浄化対策に取り組んできた。
- 第3期では、生活排水等の発生源対策を継続するとともに、特に農地由来の負荷削減のための農地対策について強化を図る。また、湖内浄化対策、アオコ対策について、新たな事業に取り組む。

長期ビジョン



【恵みや潤いのある“わがみずうみ”】

- 1 農業や漁業など湖にかかわる人々に持続的な恵みをもたらす
- 2 水遊びや遊漁など子どもから大人までが潤いに包まれる
- 3 鳥や魚や植物など多様な生き物が命を育む

水質目標と現状

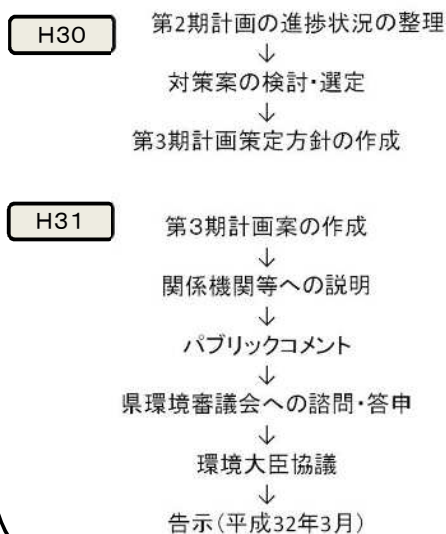
CODは、全リンは目標値をクリアしているものの、依然として全項目が環境基準を超過している。

湖心(調整池)		
	(単位:mg/L)	
	H29	H30(目標)
COD(75%値)	6.1	7.3
全窒素(平均値)	1.1	0.77
全リン(平均値)	0.077	0.083

大瀧橋(東部承水路)		
	H29	H30(目標)
COD(75%値)	7.2	7.8
全窒素(平均値)	1.2	0.77
全リン(平均値)	0.078	0.080

野石橋(西部承水路)		
	H29	H30(目標)
COD(75%値)	8.9	9.3
全窒素(平均値)	1.3	1.2
全リン(平均値)	0.063	0.069

計画策定スケジュール



計画期間 平成31~36年

第2期計画の実施状況と課題

(H30. 3時点)

評価と課題

[下水道等の整備]
⇒下水道と農業集落排水の普及率は概ね順調に進んでいるが、接続率や合併処理浄化槽の整備は目標値に対してやや遅れている。
⇒今後も、下水道等の整備を進めるとともに接続率向上を進める必要がある。

[環境保全型農業]
⇒濁水流出防止の取組は、流域農家に定着し一定量の削減が図られているが、無代かき栽培など農法転換については目標を下回っており、今後も環境保全型農業の推進が必要である。

[自然浄化施設等の活用]
⇒排水負荷を直接削減する対策としては有効である。浄化効果維持をしながら、今後も継続する必要がある。
⇒地下水等からのりん回収は、コストの問題があり、今後も有用な資材などの検討が必要である。

[西部の流動化促進]
⇒水質は改善傾向にあり、一定の成果が得られていることから、今後も継続していく必要がある。

[シジミ等による水質浄化]
⇒シジミのろ過効果は確認されたが、種苗生産や湖内での安定生産技術の確立が課題であり、研究機関と連携しながら進める必要がある。

[湖岸の植生回復]
⇒植生回復が目標を下回っているため、今後も効果的な植生回復を進める必要がある。

[未利用魚の捕獲]
⇒捕獲量が目標を下回るが、処理方法に制約がある。

[高濃度酸素水供給]
⇒高濃度酸素水は、平坦で浅い水域よりも、くぼ地の深い水域の方が効果的と考えられることから、西部において継続し、その結果を踏まえ対策に活かしていく。

[大久保湾の流動化]
⇒地区内水路の流下能力では、湖内の流動化は難しいことから、地区内水路の浄化能力の活用方法を検討する必要がある。

[アオコ対策]
⇒河川でのアオコ対策は、一定の効果が得られており、継続実施していく必要がある。

⇒アオコの発生抑制に直結する対策を考える必要がある。

点発生源対策

○下水道等の整備と接続率の向上

	普及率 % 実績(目標)	接続率 % 実績(目標)
下水道	83.1% (83.6%)	81.2% (86.8%)
農業集落排水	4.6% (4.7%)	65.1% (73.9%)
合併処理浄化槽	5.1% (6.6%)	-

○工場・事業場の排水対策

面発生源対策

○環境保全型農業の普及促進と濁水流出防止

・落水管理 ※実績: 19,629ha(目標: 17,424ha)

・農法転換 実績: 151ha(目標: 2,247ha)

・施肥の効率化 実績: 19,868ha(目標: 19,856ha)

○流出水対策地区の指定

○流域の森林整備

・整備面積 ※実績: 1,313ha(目標: 1,545ha)

湖内浄化対策

●方上地区自然浄化施設等の活用

・植生による浄化

・りん回収試験

○西部承水路の流動化促進

・導水量 実績: 14.3~9.35m³/s(目標: 12.6m³/s)

●シジミによる水質浄化

・試験の実施

○湖岸の自然浄化機能の回復

・消波工の植生回復 実績: 7箇所(目標: 19箇所)

○未利用魚の捕獲による窒素・りん回収

・捕獲量 実績: 7.1t(目標: 20t)

その他対策

○流域住民に対する普及啓発と協働の取組推進

○公共用水域の水質監視

●調査研究等の推進

・高濃度酸素水による水質・底質改善

(豊川、大久保湾、西部承水路)

・大久保湾の水の流動化対策

・中央幹線排水路の濁水対策検討

○アオコ対策

・監視カメラの運用

・遡上防止用シルトフェンス

・馬踏川アオコ抑制対策

継続

拡充

拡充

拡充

拡充

第3期計画検討事項

点発生源対策

- 下水道等の整備と接続率の向上
- 工場・事業場の排水対策

面発生源対策

- 環境保全型農業の普及促進と濁水流出防止
 - ・落水管理
 - ・農法転換
 - ・施肥の効率化
 - ・GPS利用による無落水田植えの推進
- 流出水対策地区の指定
- 国営事業による農地排水負荷削減対策
- 流域の森林整備

湖内浄化対策

- 方上地区自然浄化施設の活用
- 西部承水路の流動化促進
- 湖岸の自然浄化機能の回復
- 大久保湾の水の湖外循環
- 未利用魚の捕獲による窒素・りん回収
- 底泥対策(湖内の浚渫・覆砂など)

アオコ対策

- 監視カメラの運用
- 遡上防止用シルトフェンス
- 馬踏川アオコ抑制対策
- アオコの底質分布調査による対策検討

その他対策

- 流域住民に対する普及啓発と協働の取組推進
- 公共用水域の水質監視・調査研究の推進
- 多自然川づくりの推進
- 調査研究等の推進
 - ・貝類による水質浄化
 - ・中央幹線排水路の濁水対策検討
 - ・高濃度りん湧出対策検討

●: 新規又は拡充

※印の実績はH28年度実績